

あらかると

ドイツで暮らしはじめた当初は生活実感がわからず、戸惑うことが多くありましたが、日々の生活が落ち着くにつれドイツと日本の違いが鮮明に把握できるようになりました。

まず学校で手を上げる時、日本では手を広げてあげますがドイツでは人差し指だけを立てて手を上げます（手を広げて上げるとハイルヒトラーの敬礼を連想するからだとか…）。はじめは慣れなくてついつい手を広げて上げてしまう事もありましたが、帰国した今でもこの癖がついでてしまいます。

他にも、ドイツではどの街にも道に沿って立派な街路樹や花壇がたくさんあり緑が豊かでした。日本にも街路樹はありますが、私がみた木々は無造作に枝が切られており、近くの公園にあった立派な桜の木も「道路にはみ出すから」と枝がほとんどありませんでした。

日本では道に沿って街路樹ではなく電信柱が樹のようにたくさん立っており、植わっていても何だか変な感じです。

ただ、ドイツは街路樹がたくさんある分、秋になると歩道が埋まってしまうほど落ち葉がとても多く（写真1）、雨の後など滑って歩くのが危ないですが、日本は落ち葉どころかゴミが道に見当たりません。帰ってから聞いたところ町内会でときどき掃除しているそうで日本人はやはりマメだなと思いました。

ドイツに転勤と言われた時は不安でいっぱい、渡独直後はトラブルも多く大変でしたが、学校の先輩や友人たちとも仲良くなり、有意義な時間を過ごすことができましたので、日本に帰ると言われた時はちょっぴり寂しかったです。

帰国の日、成田空港から東京駅に着き街を見回すと、あまりに多い街のネオンが眩しく目がチカチカしました。でも結局今はそのネオンにも慣れ、ドイツでの出来事は私にとって最高の思い出になりました。

(H.S)



写真1.ドイツの街路樹の紅葉